

株式会社 西村機械製作所

『米粉』を生んだ技術で  
日本の食文化を築き  
新分野の未来を支える



スタンプミル

製粉ユニット

古き良きものから新しい素材をつくる。  
『温故知新』が息づく西村機械製作所の粉砕機械

穀物製粉ノウハウから  
米粉ブームを牽引  
日本の農業を守る

昭和9年の創業以来、麦、米、そば、スパイス等あらゆる穀物の粉砕、ふるい分け、混合機器を開発、製造。食品加工に欠かせない、製粉技術に特化した粉体エンジニアリングとして歩んできた。

戦後、各社が小麦粉等にシフトするなか、西村機械製作所がこだわり続けたのは『米』。これは競争の激しい市場をあえて避け、コソコソと米分野を極めるといふ同社の経営戦略ともいえる。それが功を奏し、昭和53年には『米粉製粉機スタンプミル（胴搗）』を開発。特許出願するまでに至り、国内の米粉製粉機シェアトップクラスを誇るメーカーとなった。

「米粉製品市場を広げたい」。この想いを胸に『米粉』を『べいふん』ではなく、こめこと命名し、約10年前より新規用途米粉の製粉技術に着手。この技術が『2009年度日食優秀食品機械資材・素材賞』を受賞した。さらに、安定した粒度構成で澱粉損傷を抑えつつ一定水分の微粉砕を可能にし『米粉用気流式微粉砕機スーパードライミル』と『湿式製粉システム』の開発に成功。近年の世界的な穀物価格高騰における国内米への関心度上昇にも後押しされ、『米粉パン』の大ブームの火付け役ともなった。また、全国の学校給食にも米粉パンが導入される等『食育』にも貢献。同社の製品から生み出されるパン、麺類等『米』に無限の可能性を与える商品が次々と発売されている。「ただ『粉』にするのではなく、『美味しい粉』にすること。そのために食品機械メーカー、研究機関とタイアップし開発してきた。日本農業の基盤である米



一大ブームとなっている『米粉』。これからはブームから、“定着”に

作りを守り、推進していく一翼を担えることが誇り」と語る西村社長。現在、特許出願申請中の『湿式玄米製粉設備』を新たに開発する等、その想いはさらに深まっている。

ニーズをシーズに導く  
粉体プラント

これらのノウハウや経験を活かし、『粉体プラント』の供給にも着手。設計、製造から納品、設置まで一貫導入も手掛ける。プラント導入により最終製造ラインまで見ることができるようからユーザーの生の声が聞かれる。このシーズをシーズに変えられる環境と姿勢こそが、新たな商品開発の原動力ともなっている。

これまでも、電気・電子工学、機械・材料工学等さまざまな要素技術を融合し、粉粒体に関する独自のエンジニアリングを確立してきたが、今後はより化学・医療・環境分野にも視野を広げ新素材への取り組みにも注力。「技術力を武器に、海外にも販路を広げていく。世界に日本の底力を見せたい」と意欲を燃やしている。

Company Profile

株式会社西村機械製作所

住 所 〒581-0088  
八尾市松山町2-6-9  
TEL 072-991-2461  
FAX 072-993-6334  
設 立 昭和39年8月  
資本金 3,000万円  
従業員 50名  
代表取締役社長 西村 卓朗

- 主な事業内容  
粉粒体機械の製造販売、  
粉粒体プラントの企画・施工 等
- 主な取引先  
食品メーカー、食材加工メーカー 等

<http://www.rice-flour.jp>

他社には  
負けない

当社のものづくり  
セールスポイント



代表取締役社長  
西村 卓朗さん



常務取締役  
西村 元樹さん

“米粉”の技術で、未来を創造

食品で培われた粉体技術を通して、社会発展に貢献することを目標としています。この技術はすでに、吸水性ポリマーを使う紙おむつや二次電池材料等、新たな分野での広がりを見せています。これからも、よりユーザーに近い立場での開発に尽力いたします。